



東京18区
武蔵野・小金井・西東京
衆議院議員

2025
12/20

松下玲子

国政レポート

市民政治で

権力の不正を断つ。

～権力の監視・是正は市民代表である政治家の役割～



11/19 法務委員会で質疑

街頭国政報告会、継続中

武蔵野市イベントにて

科捜研DNA不正事件

今年9月、佐賀県警科捜研でDNA型鑑定の不正が7年余りも続いていた重大事件が発覚しました。これは、一職員の不祥事として終わらせるのではなく、政治の重要な課題と考え、松下玲子は11月19日の法務委員会で質疑しました。

DNA型鑑定は「証拠の王様」と呼ばれ、その不正や誤りは、裁判の公正を揺るがせ、その結果、えん罪という重大な人権侵害を引き起こしかねません。事件発覚後、佐賀県議会の全会一致の決議を無視し、第三者調査を県警が拒絶したことは極めて不適切です。

このような不正は、全国の警察で起こり得ると思われます。どんな組織でも間違いが起こることはあり、だからこそ、不正の事実を徹底的に明らかにするため、第三者による客観的な調査が必須です。

事件を反省し、不正や誤りを早期に発見し正していく体制を整備しなければなりません。法律等で厳格にルール化することも視野に入れ、鑑定の信頼性を取り戻すことが急務です。

選択的夫婦別姓を巡る議論

12月18日の臨時国会閉会後の法務委員会において、選択的夫婦別姓を巡る「旧姓の通称使用の法制化」について政府の姿勢を追及しました。

8月26日の第6次男女共同参画基本計画の素案にはなかった「旧氏使用に法的効力を与える制度の創設の検討」という文言が、12月12日の答申案に突如加筆されました。総理による閣僚への指示書にも「課題の整理と必要な検討」という記載しかなく、有識者会議でこれまで繰り返し議論してきたにもかかわらず、総理の指示書の範囲を超えて、突如加筆した行為は、極めて重大な問題です。

また、法的効力を与えることでどのような不利益が解消されるのか問うたところ、答えることはできない、と回答しました。外務省は、（→）



12/18 法務委員会で質疑